

男たちよ！ チャームキングなジジイになろう



毒蝮 三太夫（どくまむし・さんだゆう）1936年3月31日、大阪生まれの東京育ち。本名：石井伊吉（いしい・いよし）。タレント・俳優・ラジオパーソナリティ、聖徳大学客員教授。12歳のとき、舞台『鐘の鳴る丘』で芸能界デビューし、高校時代は東宝、大映の青春映画に出演。日大芸術学部映画学科卒業後、テレビ『ウルトラマン』のアラン隊員役などで一躍お茶の間の人気者に。1968年、日本テレビ『笑点』出演中に、落語家・立川談志の助言で「毒蝮三太夫」に改名。翌年10月からTBSラジオ『毒蝮三太夫のミュージックプレゼント』でパーソナリティを務める。Eテレ「ハートネットTV」の「介護百人一首」で司会を担当するなど幅広く活躍中。1990年、浅草芸能大賞奨励賞受賞。1993年、日本老年行動科学会「特別顧問」就任。2005年、日本雑学大賞受賞。通称「まむちゃん」「mamushiさん」。共著に『シルバー川柳特別編 ジジイ川柳』など。

木村政雄編集長スペシャルインタビュー

毒蝮三太夫

タレント・俳優

浅草寺の雷門の前で、その人を待っていた。と、そのとき、白髪の人だけが動いた——。人呼んで、ジジイ・ババアのアイドル、毒蝮三太夫さんの登場である。「まだ生きてるのか、このババア。」「しっかりせえよ、このジジイ。」握手攻めに応じながらも、お約束の、ジジイ、ババアを連発する。そのたびに笑顔の花が咲きこぼれ、パツと広がる。人を元気にするその「魔法」、教えてください！

木村 いやあ、浅草寺の雷門前からこまきま、浅草のまちを一〇分少々、一緒に歩いてきました。ママシさんの人気ぶりには改めて驚かされました。ジジイ、ババアと呼びかけているのに、笑顔で握手を求められるなん



て、ママシさん以外には、有り得ませんよ。TBSラジオの『毒蝮三太夫のミュージックプレゼント』が四七年も続いている理由が、よく分かりました。ところで、ママシさんは私より、ちょうど一〇歳上なんですよ。

毒蝮 え、俺のほうが上なの？ 俺、昭和三一年生まれだけど、木村さんは何年生まれよ？（笑）
木村 あははは。ママシさんのジョークにはかないませんね。『5L（ファイブエル）』は中高年世代がターゲットの雑誌で、今回は一〇年先にこういう素敵な大先輩がいらっしやるということで、元気ががんばろう、希望に繋げようというわけです。
毒蝮 そういう企画で呼んでくださったのなら光栄だね。何でも聞いてください。
木村 はい。私は、その菌切れのいい毒舌トークから、ママシさんはチャキチャキの江戸っ子だと思っていたんですが、お生まれになったのは大阪だそうですね。
毒蝮 そう。木村さんも大阪生まれ？
木村 いえ、私は京都です。ママシさんは、ご両親が関東大震災で被災され、大阪に避難されていた時にお生まれになったんですね。



「ウルトラマン」の科学特捜隊のアラシ隊員を演じた毒蝮さん。
©円谷プロ

ただでね。落語でも漫才でもコントでもない。台本があるわけじゃないんだから、ふつうの会話。だけど立川談志（落語家・故人）は「お前の場合、親父のヨイシヨ精神が身に付いちやってるんだよ」って褒めてくれていました。木村 あの辛口で有名な談志さんが、そこまです井伊吉青年に肩入れされたのが、すごいと思いますね。俳優を志しておられたマムシさんに「寄席の人間になれ」と誘い続けられて……。

毒蝮 志していたんじゃないじゃなくて実際に俺は一二歳から俳優をやっていたからね。舞台『鐘の鳴る丘』のオーディションを受けて合格。児童劇団に入って、中学、高校の頃は青春映画にも色々出ましたよ。

木村 しかも日大芸術学部の映画学科に入られて、劇団を創り、演出家を目指しておられた。毒蝮 そうそう。新劇でシエークスピアとか、やりたかったんだよね。



雷門から日本最古の商店街といわれる「仲見世」を抜け、歩くこと数分。浅草公会堂玄関前の石畳は「スターの広場」として、大衆芸能に貢献したスターの手形を刻印したプレートが並ぶ。もちろん、毒蝮さんの手形も。

毒蝮 説明するのが面倒でこれまで黙っていたんだけど、大正一二（一九二三）年の関東大震災で、東京はめちゃくちゃになった。親父は横浜・戸塚の農家のせがれで、一〇人兄弟の五番目くらい。東京で大工をやっていたんです。お袋は芝で生まれて神田で育った江戸っ子で、震災当時すでに神田の製本屋と結婚して長男がいました。震災後、親父は東京で仕事がなくなり大阪へ。お袋も一家で大阪へ避難した。住所は大阪市阿倍野区阪南町。

毒蝮 説明するのが面倒でこれまで黙っていたんだけど、大正一二（一九二三）年の関東大震災で、東京はめちゃくちゃになった。親父は横浜・戸塚の農家のせがれで、一〇人兄弟の五番目くらい。東京で大工をやっていたんです。お袋は芝で生まれて神田で育った江戸っ子で、震災当時すでに神田の製本屋と結婚して長男がいました。震災後、親父は東京で仕事がなくなり大阪へ。お袋も一家で大阪へ避難した。住所は大阪市阿倍野区阪南町。

うる覚えなんだけど、ご存じですか？

木村 はい、大阪でも南の方になりますね。

毒蝮 お袋の一家は大正一二年から昭和一一（一九三〇）年までの十数年、その長屋に住んでいたらしい。大正一四年には下の息子も生まれましたが、父親は乳飲み子を置いて亡くなった。その後、俺の親父とお袋が出会って昭和一一年、俺が生まれたの。それから間もなく一家で東京へ戻った。だから父親違いの二人の兄貴は、大阪弁をしゃべっている

人生のターニングポイントは、立川談志と『笑点』との出会い

木村 ところで、中学校の卒業式で、卒業生を代表して落語を演じられたって本当ですか。

毒蝮 ホントだよ。五代目古今亭志ん生の「替り目」っていう落語をやったね。

木村 一四歳で、夫婦の情愛を描いた「替り目」を演じるのもすごいですが、そんな機会を与えた学校も懐かいですね。

毒蝮 俺、子役から芸能界に入っているし、人を笑わせるのが好きだし、学校では人気者だったんです。生徒会の議長をやったり、学芸会といえば主役。落語が大好きで、当時住んでいた浅草竜泉寺から都電で上野の「鈴木演芸場」へ行くわけ。あの頃の鈴木演芸場は昼・夜通しで観られた。朝一時頃に入って夜九時頃まで落語を聴いて、帰りは都電に乗らないで一時間ぐらい歩きながら、三つくらいは演目を覚えてしまう。まだ、テレビは無いから、NHKラジオの『放送演芸会』の時間になると、じつと耳をすまして聴いたもんです。

木村 そこまで落語が好きだと、ふつうは落語家を目指すのでは？

毒蝮 あ、そうか……。でも、俺は落語家になろうとは思わなかったね。

木村 高校は都立大森高校で、優秀



渥美清や東八郎らコメディ俳優を輩出した「浅草フランス座演芸場 東洋館」や「浅草演芸ホール」を突撃訪問した毒蝮さんは、まるで「わが家」に帰ったような笑顔になった。

したよ。

木村 お兄さんたちは東京に帰って困られたでしょうね。まだ、いまほど大阪弁が知られていませんから。

毒蝮 喧嘩をすると「あほんだらー」とか、七輪のことを「かんでき」とか言ってたね。

親父は大工だから、八丁堀の大工や職人仲間いろいろなことを教わるわけ。口数は少ないけど、面白いことをよく言っていたね。ある時、親父が作った棚が落ちた。その家主が文句を言いに来たら、親父は「何か乗せたんだろう」って（笑）。それに江戸っ子はカネが無い。今日、うなぎを食いてえと言っても、食うためには何か面白いことを言わなきゃいけないんです（笑）

木村 面白いやつじゃないと、職人仲間に入れてもらえないんですね。

毒蝮 そうそう。面白いやつ、大阪にもいるでしょう。

木村 いますね。愛嬌だけで持っている芸人さんもいますよ（笑）

毒蝮 あははは。あいつ、芸はダメだけど、一緒に居ると場があったまるとか、陽気でいいよとか。そういう普段の会話の面白さを、俺は大工の親父から教わったね。

木村 なるほど。マムシさんの不思議な温かみのある毒舌トークのルーツは、お父さんだったんですね。

毒蝮 いま、俺がやっていることを「話芸」と言う人もいるけど、俺は来た球を打ち返しているだけ。相手に合わせてしゃべっている

じゃないですか。

毒蝮 浅草から品川に引っ越したので、学区でいえば東大進学で有名な日比谷高校とか新宿高校だけど、そんなハイレベルじゃないから都立大森高校に進んだ。その頃劇団に入っで、当時の銀幕の大スター、若尾文子さんと根上淳さんの映画に高校生役で出演。昭和二六年、二七年頃といえば、ポスターでも、女の人の足がちよっとでも見えたらダメみたいな時代でねえ……。

木村 そんな役者として着々と活躍を始めていたマムシさんと、天才落語家の呼び声が高



かった立川談志さんが、どういうきっかけで出会われたんですか？

毒蝮 知り合ったのは二一歳の頃。新劇にあがれて俺も劇団を創っていたし、談志は俺たちが出ていた劇場で落語会をやっていた。それでお互いを知る役者がいて、仲を取り持ってくれたんです。

志が「怪物にも負けないような名前で、蝮ってのはどうだ？」と言うと、圓楽さんが「ただの蝮じゃ面白くねえ、毒を付けろ」って。「三太夫」は、『談志専科』というテレビ番組があって、談志がお殿様で、田中三太夫という家老を俺がやっていた。「おい、三太夫、世間はどうなっているか？」「へい、浦賀の沖に黒船が来ました」「黒船ごときで驚くものか。あとは？」「(月の家) 圓鏡が落語の稽古をしました」「そりゃ、驚いた」というような風刺を効かせたギャグ(笑)。それが『笑点』のプロデューサーなどの目に留まって「毒蝮三太夫」になった。最初は「石井伊吉こと毒蝮三太夫」だったんだけど、番組の中で改名披露までやって、この芸名が定着したんです。

座布団運びの本気バトルが、仕事のベースになっている

木村 でも無理やり「石井伊吉」を「毒蝮三太夫」にした談志さんが、突然、選挙に出て、『笑点』を降板されたんですよ。いきなり、はしごを外されたようなものじゃないですか？

毒蝮 談志はわがままでね。だから俺も、あれだけ悩んで、やっと引き受けた座布団運びを一年ぐらいしかやってないんだよ。

木村 談志さんが降板した後も、慰留されたんじゃないんですか。

毒蝮 されましたよ。談志は辞めるけど残ってくれて。「毒蝮」は日本テレビで付けた

木村 マムシさんはその後、『ウルトラマン』や『ウルトラセブン』で活躍されるわけですが、談志さんに『笑点』の座布団運びを頼まれたわけでしょう。そのときの口説き文句は、何だったんですか。子どもたちのアイドルとしては、悩まれたのでは？

毒蝮 そりゃ、悩まないわけがないよ。談志名前だから、よそじゃ使ってくれないよ、とか言われて。だけど、そう言われると江戸っ子魂に火がついて、「この名前で世間に通用するようになってやるうじゃないか、それが談志へのお返しだ」と思いましたね。
木村 談志さんへの義理を通されたんですね。だけど仕事はなくなったわけですよ。
毒蝮 『笑点』の仕事はなくなりましたが、TBSからラジオ番組のパーソナリティのオファーがあったんです。それが四七年続い

が俺を演芸の世界に引きずり込むまでに、七年かかっているんだから。銀座のバーで「お前は所詮、二枚目俳優の仲代達矢さんにはなれねえんだから」ってね(笑)。「怪物ブームだつて、すぐに去っちゃう、いまのままでは、お前のよさが出ないんだ。お前は普段の話がおもしろいんだから」と、しきりに誘ってきた。どういう意味だつて聞くと「お前を寄席に連れて行くと、文楽師匠も、小さん師匠も、志ん生師匠も、お前のことを嫌がらねえ。逆に、今日は連れてこねえのかつて気にかけている。閉鎖的な寄席の中で、そこがすごいんだよ」って俺のことをリトマス試験紙みたいに言う。まだ、あいつが柳家小ゑんの時代ですよ。

木村 談志さんは「売れなかったら、俺が収入は保障する」とまで言われたんですよ。すごいプロデューサーだと思いますね。

毒蝮 そう。「お前、『ウルトラマン』で、どれだけでもらっているのか」って聞いてきたので、「二五万円くらいかな」と答えると、「その金額以上を保障するから、やってくれ」と。
木村 それにしても、どうして、「毒蝮三太夫」という、おどろおどろしい名前になったんですか？

毒蝮 結局、座布団運びを引き受けたんだけど、その頃は俺も『ウルトラマン』のアラシ隊員で知られていて、「怪物退治のアラシ隊員が、なぜ、座布団運びをしているんだ」と子どもたちからTBSに苦情がくるんです。それで、仮の名前を付けることになった。談

ている『ミュージックプレゼント』。まちに繰り出して、お年寄りや商店・銭湯などを訪ね、生放送する番組で、いま考えると、あの座布団運びが、俺の仕事のベースになっているんだなと。(三遊亭) 圓楽さんがいた、(桂) 歌丸さんがいた、(林家) 木久扇さんがいた。この手ごわい連中と、「落語家じゃない」俺が本気でバトルをやった。その経験が役に立っているんです。もし、俺が落語家になっていたら、歌丸さんだつて「兄さん」と呼ばな





取材協力/どぜう飯田屋 (☎ 03-3843-0881)



単行本 (ソフトカバー)
「シルバー川柳特別編 ジジイ川柳」
「シルバー川柳特別編 ババア川柳」

毒蝮 三太夫 (著)
みやぎシルバーネット (著)
河出書房新社編集部 (著)
出版社: 河出書房新社



TBSラジオ
「ミュージックプレゼント」
平成 27 年 10 月で 47 年目に突入した長寿番組。
(月～金曜日午前 10 時 30 分～11 時、TBS
ラジオ/大沢悠里のゆっゆっワイド)内で生放送中

だから「おもしろ真面目」って言うの。分かりますか？
木村 「おもしろ真面目」、よく分かりますよ。だから、お年寄りが、ジジイ、ババアと呼ばれるでも怒らないんですよ。むしろ喜んでる。

きやいけないし、談志も「師匠」でしょ。実際は「おい、談志！」と呼ば捨てだもん。
木村 ホンネのバトルだからこそ、人の心を打つんですね。そのラジオ番組が、こんなに長く続くと思われていましたか。
毒蝮 思いませんよ。だけど、この番組のおかげで、俺がお年寄りのオーソリティになっちゃった。いま、NHKの介護の番組や、大学の教授もやれているのは、このラジオ番組があつたからこそ。そして、親父が工夫したり、お袋が、たぬきババアだったり(笑)、談志という名伯楽がいて、俺をつくってくれたんだなと感謝している。この四七年を振り返ると「石井伊吉」が、「毒蝮三太夫」という役を演じている気がするね。そして、はっ

きり言えることは、石井伊吉で役者を続けていたら、この年まで仕事は続かなかつたってことだ。

木村 最近では、ドラマも映画も本数が減っていますからね。でも、マムシさんの活動は幅広くて、肩書きを付けるとき、悩みます。

毒蝮 そう、思いますか？ 俺も悩むね。俺って何だろうって。マルチの時代っていうか、談志という名プロデューサーに乗せられちゃったのかな。

木村 だけど、この名前、奥さまには言えなかったでしょう。
毒蝮 結婚は昭和三七年で、まだ「毒蝮」になってないときだね。彼女はパートに勤めていて、三越劇場で公演したときに出会ったんです。結婚式では談志が司会をしてくれました。

木村 小林桂樹さん(俳優・故人)の仲人というのはどういうご縁？
毒蝮 小林さんは日大芸術学部の先輩でもあり、東宝の映画にも一緒に出だし、ラジオでも一緒していたんです。いい酒を飲む方で、俺の酒の師匠は小林さんだよ。改名のときは、小林さんにも相談しました。すると「気楽に考えたらいいんじゃないの」って背中を押してくれた。「毒蝮」がダメだったら、長谷川一夫「って手もあるよ」と笑って。後年、談志に言われたのは「お前、よくシャレで付けた名前で、ここまでやって来たなあ……」(笑)。

マムシさんは毒舌でも、全然、偉ぶっていない。人を大切にされているのが分かります。中には大学教授になって、偉そうにする芸人さんもありますが、どうかなくと思いますよ。だって人間、偉そうにする方がラクですから。いま、うかがっていて、マムシさんは役者さんとしても魅力的になられたなと感心しました。これから、いい役がいっぱい来ますよ。
毒蝮 そういえば最近、役者のオフアアが多いですよ。だからチャージングなジジイになりたいと思っています。トム・クルーズみたいなね(笑)。

木村 マムシさんは我々の希望の星ですから、どんな「ジジイ」になられるのか、楽しみにしています。最後に読者に熱いメッセージを。
毒蝮 昔は人生五〇年だったから、思い悩むことは少なかったんです。でも、いまは人生八〇年で、定年後に二〇年もある。この二〇年をどう生きるか、これが悩みのタネ。とくに男が大変だよ。女は友達が多いし、よく食べ、よく笑い、よく出掛けるからそんなに心配はしない。男は閉じこもって、認知症やうつになってしまふ。それじゃダメだよ。出掛けて、しゃべって、笑って、人付き合いをすること。言わぬが花なんて時代じゃないんだ。一〇四歳で現役医師の日野原重明先生にも言われたんだけど、年を取ったら、まず素直になること。みずみずしく、柔軟でいることが大事だよ。若いときは無鉄砲でいい。年を取ったら素直にならないと嫌われるよ。「経済

男たちよ、人生八〇年時代を
みずみずしく、柔軟に生き抜こう

木村 こうしてみると一〇〇代の女子大生から、八〇代、九〇代、一〇〇歳のお年寄りまで、これだけターゲットの年齢層が幅広いタレントさんもないでしょうね。

毒蝮 いまどきの学生さんは、落語を「楽語」なんて書くんだからね。朝のラジオでも、四七年前は日露戦争の話ができた。いまは第二次世界大戦で、空襲で逃げ惑ったことも分かっていない若者が多い。だから世代間のジョイント役というのかな。そんな役割を感じている。木村さんみたいな本職から見ても、何なんだろうね。俺は？

木村 マムシさんの場合、「タレント」というと、少し軽い感じがしますよね。「伝道師」じゃないですか？

毒蝮 あ、昭和の伝道師ね。いいねえ。昭和は戦争があつたから、この辺だつて空襲で一〇万人も亡くなっている。俺は焼け野原を実際にこの目で見ていたんだから、それを次の世代に伝えていくのも、仕事のような気がする。この間、NHKの加賀美幸子アナウンサーと対談したら、俺の笑いを分析してくれたんです。彼女いわく、自分は真面目に見えるけど、実は古典に通じていて、徒然草や新古今和歌集がそらで言える。その語りが面白くてね。彼女は真面目に見えるけど面白い「真面目おもしろ」。一方の俺は、面白くていい加減なやつに見えるけど、本当は真面目。

の不安「健康の不安」「孤独の不安」この三つを高齢者の「3K」と言うんだ。もう俺も立派なジジイだけど、この3Kを自分のそばに置かないようにして、みずみずしく、生きていこうよ！

木村 まさに「生涯青旬」ですね。私も一〇年後、いまのマムシさんをイメージしながら、しっかりと生きることになります。本日は、ありがとうございます。

対談後記

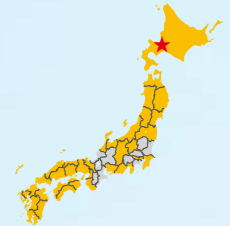
せっかく毒蝮さんに出会えたのだからと、場所を浅草に設定した。やはり少年期を過ごされた地元とあつて、あちこちに馴染みの方々が。対談場所の「どじょう屋」さんに辿り着くまで、自在に歩く蝮さんの後を追うのに苦労した。とても傘寿を前にした人とは思えないほどの健脚である。席に着くや否や、お茶を飲む間もなく話が始まった。とてもフレンドリーにお話をいただき、感謝のほか無い。目の前に置かれた「どじょう鍋」のおかげもあつてか、「あつたかい」気持ちで終えることができた。それにしても、一〇年後自分も、今の蝮さんのように元気であられるのだろうか？(女房には内緒だけれど)やはり、「素直」にならなきゃいけないんだらうな、でもこれが結構難しく……。



日
に
っ
ぽ
ん

北海道

札幌市



冬は美しい雪景色を見せる北海道・札幌市。降り積もる雪は、大通公園などで開催されるイルミネーション、札幌時計台などを幻想的に演出します。開拓使に由来するものや美味しい食べ物等々、札幌市には魅力がいっぱいです。





札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学構内

北海道の歴史的遺産、北大ポプラ並木



さっぽろ産業振興財団の佐藤有史さん（右）。学生時代はサッカー部でした。

北海道大学構内のポプラ並木は、「さっぽろ・ふるさと文化百選」にも選ばれた、北海道を代表する歴史的遺産です。ポプラ並木の基となったのは、北海道大学の前身である札幌農学校時代の1903年に、数本のポプラが植えられたことが始まりでした。1912年になると林学科の学生たちが実習の一環でさらに45本のポプラを植えたことから、並木道を形成するようになったと言われています。

現在は大切に保存されているポプラ並木ですが、過去には伐採の危機にさらされたことも。1959年に大型台風が襲来し、10本近くのポプラが倒れてしまいました。安全面などの問題から、残りも全て伐採しようという意見が出ました。それを救ったのが、小学校5年生の女の子から当時の北海道知事への1通の手紙でした。「私たちのポプラがかわいそう。植え直してあげてください」。彼女の切実な願いから、北海道と北海道大学の協力でポプラが植樹され、それ以前よりも長い300mの並木道へと成長しました。

雪の降り積もる時期になると、銀世界の中でそびえ立つポプラ並木が、美しい景観を生み出します。



屯田兵が暮らした家屋「琴似屯田兵屋」

北海道の警備と開拓を目的に本土から入植してきた屯田兵は、政府によりあらかじめ用意された「兵屋」を住居としていました。琴似神社で保管されている琴似屯田兵屋は、当時の兵屋の原形を残す数少ないもののひとつ。北海道指定有形文化財に認定されています。兵屋は一戸建てで、村ごとに定まった規格で作られていました。琴似屯田兵村では木造平屋で、間取りは土間と居間、8帖、4・5帖の和室からなり、全体で約17坪の広さでした。囲炉裏や火鉢などの道具からは、屯田兵が北海道の長くて厳しい冬の寒さに耐え、屯田兵としての使命をまっとうしようとした逞しさがうかがえます。

札幌市西区琴似1条7丁目 琴似神社境内



大通公園、時計台、赤れんが庁舎…札幌の観光名所



1878年、クラーク博士の構想に基づき建設された札幌市時計台



雪化粧の赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）

「さっぽろ雪まつり」の開催などで知られる大通公園は、札幌の中心部を東西1・5kmにわたって横切っています。夏は「SAPPORO CITY JAZZ」やビアガーデン、秋は「さっぽろオータムフェスト」など、四季折々のイベントが催され、年間を通じて人が集まり賑わう場所でもあります。「さっぽろ雪まつり」に先駆けて行われる「さっぽろホワイトイルミネーション」はいまから35年前、1981年に開始しました。当時の札幌は夏の観光が主流。札幌の美しい冬景色をより多くの人に知ってもらうために、雪が降る札幌ならではの白銀の景色と美しいイルミネーションを融合させた幻想的なイベントを産み出しました。初年度に使われた電球の数は1048個。現在は大通公園だけではなく駅前通・南一条通へと規模が拡大し、合計52万個もの電球が街を彩る大イベントへと発展しました。

その他の札幌の名所といえば、札幌市時計台や、赤レンガ庁舎（北海道庁旧本庁舎）が有名。この二つをめぐるときには、建物どこかに刻まれた「赤い星」を探してみてください。これは、かつて開拓使が旗や建物に描いた「五稜星」がルーツ。札幌の歴史を物語っています。



北海道最古にして最大級の商店街



狸小路商店街は、北海道内で最大級の規模を持つ商店街です。7ブロック総延長は約900m、店舗数は約200軒にものぼります。ドラッグストアやスーパーなど日用品を扱う店から土産物店などさまざまなお店が並び、地元の人をはじめ海外からの観光客で賑わっています。屋根付きで、雨や雪の日でも傘をささずに歩けるのも便利。足元が滑る心配もありません。

「狸小路」の名前にちなんで、商店街のいたるところで可愛らしい狸の置物を見かけます。狸小路五丁目には、「狸神社」の通称で親しまれている本陣狸大明神社も。しかし、なぜ狸小路の名になったかは定かではないそう。狸小路発祥について触れた『札幌繁昌記（1891年刊）』によれば、街頭に立って言葉巧みに男を誘った女たちを狸になぞらえたことが由来の定説。この一帯に狸が生息していたから、とする説もあります。

狸小路は、北海道最古の商店街のひとつでもあります。始まりは、1869年に明治政府が開拓使を札幌に置いた頃に商家や飲食店が建ち並んだこととされています。



右から代表取締役の本間幹美さんと、「看板娘」の大堀禮子さん。



札幌市豊平区月寒中央通8丁目1-10 月寒中央ビル1階

見た目は饅頭、名前は「あんぱん」

1906年、銀座・木村屋の「桜あんぱん」が大変美味しいという噂をもとに、月寒の菓子職人・本間与三郎がまだ見たことのない「あんぱん」を想像して作ったのが「月寒あんぱん」でした。

今年4月に80歳を迎える大堀禮子さんは、「月寒あんぱん本舗ほんま」の店頭に立ち続けて50年。大堀さんとの会話を楽しみに来店する人も沢山いるそう。



世界で初めてゴムタイヤを採用した札幌市営地下鉄

電車といえばレールの上を鉄輪で走るのが一般的ですが、札幌の地下鉄はゴムタイヤを採用しています。ゴムタイヤ車両は、粘着性が高いため加速・減速がしやすいのが特徴。駅間距離の短い札幌市営地下鉄において、この性能は重宝されています。最近では東京都内を走るゆりかもめなどにも採用されていますが、1971年に営業を開始した札幌市営地下鉄は、世界で初めてゴムタイヤを使った先駆者の存在でした。



札幌市交通局の中田奈津子さん



右から北海道田舎プロデューサーの大山慎介さんとフリーレポーターの山本浩子さん

「大山慎介のちょっと暮らし北海道」の収録現場

STVラジオ「大山慎介のちょっと暮らし北海道」は、北海道の魅力を伝えるラジオ番組です。パーソナリティを務める大山慎介さんは、元北海道庁職員。気になる地域に試験的に滞在しながら移住を検討する「ちょっと暮らし」を、全国で初めて企画しました。現在は、「北海道田舎プロデュース」代表として活動中。柔らかい丁寧な物腰の内側には、北海道への熱い思いを秘めています。同番組制作担当の三井孝浩さんも「北海道の中でいちばん北海道のことを真剣に考えている人」と、大山さんのことを語っています。



札幌市西区二十四軒3条7丁目3-22

昭和の思い出が詰まった博物館

北海道のロングセラー商品「しおA字フライ」。アルファベット型のビスケットとして、1955年の発売開始以来、北海道の子供から大人までに親しまれています。製造元の「坂栄養食品株式会社」に併設された「レトロスペース 坂会館」では、展示品は全て、同社の開発部長・坂一敬さんが50歳頃から20年近くかけて集めてきた昔のポスター、人形、骨董品等がびっしりと展示されています。



札幌市内を歩いていて、ちょっと気になるのが鴨々川。京都の鴨川を彷彿させるネーミングが目を引きます。名前の由来は定かではなく、一説によると、札幌が京都にならって暮盤の目状の街づくりをしたことから、京都の鴨川にちなんだ名前にしたのだとか。その他、「カモカモ」という、サケを獲る道具を意味するアイヌ語を語源としているのでは？と推測している説など、諸説あります。

ビジョナリーな人たち

志釜利行 時計台観光株式会社 代表取締役

親の教えと妻のアドバイスが私を導いてくれた

国内外合わせて60店舗近く展開しているラーメンチェーン店「味の時計台」。人脈もツテもなしにここまで辿り着いた軌跡を聞く。



志釜利行 (しかま としゆき)
1947年、北海道中川郡美深町生まれ。1969年、北海道新聞社入社。同社を退社後、飲食店勤務や経営などを経て、1974年に「味の時計台」第1号店を開店。

「味の時計台」は、全国に56店舗展開し、台湾・タイへも進出しているラーメンチェーン店だ。「札幌ラーメン」のブランドを広めるきっかけとなった会社の一つであり、また、40年ほど前に、どんぶりを覆い隠すほどの大きなチャーシューがのった「ジャンボチャーシュー麺」で一世を風靡した歴史を持つ。創業者の志釜利行さん曰く、「北海道で30

年以上続ければ、その店はもう老舗」。すすきの9坪ほどの小さなラーメン屋を開店してから42年、苦難を乗り越えながらなんとかここまで続けてきたと語る。

「他のものには手をつけない」という父の教えを守り、ラーメン屋を始めてからは一度たりともラーメン以外の分野に手を広げたことはありません。長く続いているのは、そう

いう堅実な働き方のおかげだと思っています」志釜さんは、1947年、札幌よりも北に位置する美深町で生まれた。小学生のときから両親が営んでいた鉄工所の仕事を手伝うようになり、朝早くから夜遅くまで、ほとんど眠ることなく働き続けた。父親の教えは、後に志釜の経営哲学のもととなった。

「父は、とても堅い性格でした。父に教え込まれて私も鉄のような働き方をして、自然と忍耐力や根性が身につきましたよ」都会で経営を学びたいと思ったのは22歳のときだった。両親をなんとか説得して札幌に出てきたはいが、ツテもなければ知り合いもない。東京から長野までとほぼ同じ距離にあたる、200キロメートル以上も故郷から離れた地で、志釜の孤独な生活が始まった。すぐに見つけたのは、北海道新聞社の求人広告だった。200人の受験者のなかからたった2名の採用枠に食い込み、北海道新聞社に入社が決まったのは23歳の時だった。総務部に配属されたが、1年も経たないうちに退職を決めることになる。きっかけは、社員食堂で昼食を食べていたときに上司がもらった「会社を辞めて飲食店でもやった方がいいよな」という、何気ない一言だった。

「上司は自分自身のことを言っていたんですけど、妙にその言葉が響いてね。その晩、家に帰ってからも、その一言が頭から離れなかった。『確かに食べ物は生きていく上で欠かせないものだし、自分は商売をする方が向いているかも』と考えたんです」



一世を風靡した「ジャンボチャーシュー麺」(現在はメニューには無い商品)



看板メニューの「味噌ラーメン」。『北海道の食材を使う』という信念から、茎わかめを盛り付け。甘みのある濃厚な味噌の味わいが人気。

和食、中華、居酒屋などさまざまな飲食店で数年間修業を積み、26歳で独立。最初に開いたのは居酒屋だった。朝早くから起きて市場へ買い出しに行き、昼は仕込みをして、夜は店の営業をする。思った以上に居酒屋の経営はつらいものだった。ふと向かいのラーメン屋を見ると、規模はほぼ同じなのにオーナーは自分よりもはるかにラクそうに働いている。確かに、ラーメン屋は麺や肉など仕入れる食材が固定されるため、毎朝わざわざ市場に買い出しに行く必要もない。何より、思い起こせば自分は子どもの頃からラーメンが好きだった。

「こつそりと筆筒から親のお金を持ち出し、近くの食堂にラーメンを食べに行ったら記憶が蘇ったんです」

ラーメン屋で修業を始めると同時に、独自の味を生み出すためにスープの試作を重ねるようになる。ほどなくして、27歳でススキノ新ラーメン横丁に出店。北海道新聞時代に毎日オフィスから眺めていた札幌市時計台にちなんで、店名は「味の時計台」に。後にチェーン店へと拡大していく記念すべき第1店舗目の始まりだった。

しかし、すぐに経営が軌道に乗ったわけではなかった。居酒屋を営んでいた頃と同じように、昼も夜も働く生活が3年近く続いた。「24時間常に仕事のこと気がなってきた。家に帰る暇もなく、とにかく必死で働きました。家に帰る暇もなく泊まり込んでいたのですが、夜はテナントの空調が止まってしまっ

です。冬になると寒くて仕方なくて、ダンボールを布団にしてみました。過酷な生活に耐えられたのは、親に鍛えられたおかげです」そんな志釜さんに、妻はあるアドバイスをした。

「妻が、小樽で食べた特徴のあるラーメンが印象的だったと言って、私にもそういうインパクトのあるラーメンを作るように勧められたんです。自分で言うのも恥ずかしいですが、私は妙に素直なところがあるので、妻に言われた通り特徴のあるラーメン作りにチャレンジして、麺が隠れるくらいの大きな肉が乗っているラーメンを考えましたが、しかし、大きな肉が崩れてしまわないように味付けするのが大変だし、切るのも大変。仕込みにも2日かかる。苦労と工夫を重ねて完成す

るまでに半年くらいかかりました」

「ジャンボチャーシュー麺」と名付けて商品化すると、それがたちまちテレビ局の人間の目にとまり、全国放送で紹介された。「テレビの力は大きい。一気に話題になって、売り上げがめきめき伸びていきました。1977年に2号店を出店してからは、瞬く間に全国展開のラーメンチェーンへと成長した。妻なくしては今の『味の時計台』はなかった。店が増えたおかげでジャンボチャーシューの供給が困難になって泣く泣くメニューから外してしまったのですが、また復活させたい。何といってもこれが私の原点ですから」

御歳69歳。志釜さんの夢はまだ尽きない。「夢はアジア制覇。そして、末長い商売を心がけることが私のポリシーです」

木村の視点

市場規模が6千億円、全国に2万店があるといわれるラーメン業界は、一方で年間新規出店が3500店で、撤退をする店がそれと同数あるといわれるくらい競争の激しい世界でもあります。そんな厳しい世界にあって、創業から42年を迎えるというのはなかなか出来ることではな

い。成熟したマーケットでの勝ち残りのキーワードは、「〇〇といえば△△といわれるくらいダントツの一品を持つことだ」といわれるが、志釜さんの場合はそれが、「ジャンボチャーシュー麺」だった。だが、そこに安住してはいけません。そのため、今も会議の日以外は札幌を離



れ、全国でマーケティング行動を続けているという。我々が訪れた日も、沖繩からのおんぼ返りだったとか。15、6年ぶりにお会いした志釜さん、確かあの頃は、宇崎竜彦さんに似ていたんだけれど。



雪景色や美味しい食べ物をアピールして 交流人口を増やしていく

昨年5月に札幌市長に就任しました。自分が生まれ育った北海道という土地を、私はこよなく愛しています。そんな北海道の街のひとつである札幌を次の時代に残していくための仕事ができることは、大変嬉しいことです。

昨年、札幌は神戸・長崎と並んで「日本新三大夜景都市」に認定されました。他の二都市と比較して、札幌には雪があるのが強み。毎年冬に開催される、「さっぽろホワイトイルミネーション」は、雪景色と光のオブジェが合わさって幻想的な風景を見せる、札幌ならではのイベントです。近年、台湾や香港、シンガポールなどアジアの暖かい気候の国の人々が、雪を見てみたくて冬場の札幌を訪れることが多くなっています。また、目で見て楽しむだけでなく、札幌の雪は「パウダースノー」といって、水分が少なくサラサラ

ラしているのが特徴。このサラサラの雪の上でスキーやスノーボードができるということから、市内をはじめ、ニセコなどのスキー場は、ヨーロッパやカナダの人々からの人気が高まってきています。これまで札幌は、寒くて雪の多い冬の時期にどうしても観光客が落ち込んでいたのですが、これは明るい兆し。雪という、札幌に潜在的に備わっている観光資源を、これから益々活かしていければと思っています。

札幌のもうひとつの魅力といえば、食。最近特に注目されているのが、「さっぽろオータムフェスト」という食のイベントです。毎年秋に大通公園で開催される、北海道全域の農産物や海産物を集めて、生産者や料理人、醸造者などの作り手と消費者が直接に接触できるイベントです。今年度は約一カ月前開催しました。このイベントでは屋台や飲食スベ

ミュンヘン、サッポロ、ミルウォーキー	北海道の方言
1950年代に流行した「ミュンヘン、サッポロ、ミルウォーキー」のキャッチコピーですが、当時緯度が同じという情報と共に知られるようになりました。しかし、実際は3つの都市の緯度は違っており、ロシアのウラジオストク、中国の長春、フランスのマルセイユやイタリアのローマが札幌市とほぼ同緯度にあります。ちなみに「ミュンヘン、サッポロ、ミルウォーキー」の共通点は、「ビール作りの盛んな都市」です。	北海道の方言のルーツは、津軽との関わりが深かったことから、津軽地方から伝わったとされ、道南へと広まりました。津軽弁に非常に似た、聞き取り難い方言です。 ★北海道方言の代表格と例文 ・投げる(捨てる) / 今週のゴミ投げ当番は誰だ? ・うるかず(先送りにする) / 例のプロジェクトはしばらくうるかずかそう ・おだつ(調子に乗る) / あいつはおだつ奴だ ・はっちゃきこく(夢中になる) / はっちゃきこくのは良い事だ ・あずましくない(落ち着かない) / この家はあずましくないな



札幌市

【面積】 1,121.26 km²
【人口】 1,948,262人
【世帯数】 943,521世帯
(平成27年9月1日現在)

ースを設けたり、各地域の特産品を並べた市場を開催したりします。北海道のいろんな「食」が経験できますし、北海道全体の情報発信の場でもあります。参加者は年々増え続け、今年度の来場者数は220万3000人を記録しました。これは、冬の「さっぽろ雪まつり」の来場者数とほぼ同じ数字です。このように、**観光分野は成長産業のひとつとして特に力を入れています。**2015年度の観光予算は当初7億8900万円で組まれていましたが、私が就任した後の6月に補正予算案を編成し、倍の15億3900万円に増やしました。具体的には、冬の「さっぽろ雪まつり」の一部会場や秋の「オータムフェスト」の会期の1週間延長などを実施しました。「さっぽろホワイトイルミネーション」も、今年度からリニューアルして規模を大きくしました。

札幌への誘致という面では、MICE総合戦略も進めています。MICEとは企業等の会議(Meeting)、報奨旅行(Incentive Travel)、国際会議・学術会議・学会等(Convention)、展示会、イベント(Exhibition/Event)の頭文字をとった、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称です。札幌は食べ物美味しいので人を呼びやすいですし、宿泊する場所としての機能をさらに高めていきたいですね。ホテルも増えています。また、**台風や地震などの自然災害のリスク**

が少ない街であることから、企業の本社機能を札幌に移すケースも増加しています。これまでは、札幌に住み続けたくても、仕事がありませんので市外に出ざるを得ないこともありました。こういった動きにより職が充実してきました。同時に、都心で集合住宅やマンションの建設も進んでいるので、通勤しやすく、懸念されがちな雪の処理の心配もないなど、居住環境も非常に整ってきています。東京に比べて、安い家賃で広めの部屋を借りることが出来ます。転勤などで外から札幌にいらしたとしても、色々便利ですのですぐに馴染める、暮らしやすい街です。

子育てしやすい街でもありますね。例えば、東京で働く方々は通勤時間が長く、朝早く家を出て夜は帰りが遅くなるのでほとんど子どもに接することができなかつたりするかと思います。札幌は街がコンパクトなので通勤に時間がかからず、大抵のお父さんは一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりと、家庭で過ごす時間を確保できるのです。私も、子どもが小さい頃はなるべくそうやって過ごすようにしていました。

食文化でいえば、札幌はジンギスカンや札幌ラーメン、スープカレーなどが有名でし

たが、エゾシカ料理にも注目が集まり、市内に鹿肉料理を扱う店が増えてきています。札幌市内の山林にはエゾシカが多く生息し、年々、増殖している傾向にあります。札幌市は市街地と山林が隣接していて、大都市でありながら自然が豊かであることが魅力なのですが、その半面で、山林に生息するエゾシカが市街地に出没しやすくなってしまい、農業被害や交通事故などが発生することも。野生のエゾシカと住民がいかにうまく共存していくかということが課題でした。そういった中で、近年、エゾシカを札幌の食文化のひとつとして捉えるようになってきたのです。

これからは札幌の魅力をどんどん発信していきたい、より多くの人に訪れていただきたいと思っています。



「ミシラン」…いいお店なのにまだまだ世間が魅力知らない【魅知らん】名店を紹介していきます。

ファイブエル ミシラン★



札幌発祥「スープカレー」の元祖

薬膳カリイ本舗 アジャンタ総本家

2000年代初めに全国的なブームとなったスープカレー。札幌はスープカレー発祥の地であり、そのなかでも元祖とされているのが「薬膳カリイ本舗アジャンタ総本家」の「とりかりい」だ。「とりかりい」を考案したのは、先代の辰尻宗男さん。喫茶店を営んでいた辰尻さんが自分と父親のために作った薬膳スープを店内で飲んでいたところ、それが常連客の目にとまったことに由来する。

「先代は、薬で知られる富山県出身で漢方薬への造詣が深かったことから、参鶏湯のような白い薬膳スープを自分で作っていたそうです。それを商品化したのは1971年。薬膳の香りを和らげるためにスパイスを加え、カレー味にしたのが始まりでした」

と、アシスタントマネージャーの澤田真さん。余談だが、「スープカレー」という名称が誕生したのは、「薬膳カリイ」の販売から約20年経ってから。1993年に札幌市内で開店した「マジックスパイス」という飲食店が、メニューで「スープカレー」という言葉を用いたことから、徐々に定着していったという。

「辰尻の基本理念は『薬効のあるものを食べて自然治癒力が高まること』でした。彼が退いたまま、30種類のスパイスと15種類の漢方をブレンドした彼のレシピを守り続けています」

澤田さんが語るように、「体質改善になる」「健康になる」「二日酔いに効く」など、「とりかりい」の効用はさまざま。その味わいはというと、外の寒さで凍えた体を温めるような辛さと、不思議と後を引く薬膳の香りが特徴。この独特の味わいに、やみつきになる人もいるそうだ。



薬膳カリイ本舗 アジャンタ総本家
札幌市東区北23条東20丁目2-18
【TEL】011-784-8910
【営業時間】① 11:00～スープ品切れまで
② 17:00～スープ品切れまで
【定休日】月曜日

とりかりい 1000円